Zero, start, sea bass fishing book

＜準備編＞

【ご注意ください！】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。

下記の点にご注意ください。

このレポートの著作権は斉藤真吾に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を

いかなる手段においても複製、転載、流用、転売等

することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記に記載された

事項に同意したものとみなします。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を

いかなる手段においても複製、転載、流用、転売等

することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った場合、その他の不法行為に

該当する行為を行った場合は、関係法規に基づき

損害賠償請求を行う等、民事、刑事を問わず

法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートの情報は作成時点での著者の見解等です。

著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、

見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、

万が一誤り、不正確な情報等が有りましても

著者及びパートナー等の業務提携者は一切の

責任を追わない事をご了承願います。

このレポートを利用することにより生じた

いかなる結果につきましても、著者及び

パートナー等の業務提携者は一切の責任を

追わない事をご了承願います。

【推奨環境】

このレポートに記載されているURL はクリックできます。

できない場合は最新のAdobeReader を下記のページより

ダウンロードしてください。（無料）

http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html

目次

・はじめに

・ロッドの基本的知識

・始めてのタックル

・必要になる道具たち

・ライフベストについて

・必要最低限のルアー

・ゴミ入れを準備する

はじめに

こんにちは、しんです。

このZero, start, sea bass fishing book

準備編では、あなたがこれから

シーバスフィッシングに必要なアイテムを

準備していくにあたって、大切な

予備知識と選ぶ基準などを織り交ぜて

お話させていただきます。

シーバスフィッシングを楽しんでいくのに

大切な内容になっています。

何度も読み返して完全に

あなたの脳にインストール

しておいて頂けるとうれしいです。

じゃ、さっそく。

ロッドの基本的知識

【シーバスロッドの強度】

「シーバスフィッシングを

始めるのなら竿が必要だ！」

と思ったあなた。

いざ、店頭へシーバスロッドを

見に行っても、ロッド（竿）の

表記の見方って良くわかりませんよね？

説明しよう。

例えばコレ。

メジャークラフト社製

skyroad SKR-902ML。

まず、目に入るのがロッドの名前。

上の画像の例だとSKR-902ML。

SKRとはskyroad、

スカイロードという竿の名前です。

次に902、これはロッドの長さを表していて

私達釣り人にとっては品番みたいなもの。

長さの単位はフィートが使われていて

この場合だと、およそ9フィートの

長さを意味します。

1フィートはおよそ30センチなので

つまり2メートル70センチくらいの

ロッドになります。

そして次に**ML。**

これは簡単に言うと

ロッドのパワーを表しています。

ミディアムライトの略でパワー的には中クラス。

スカイロードにおいては

10～30グラムくらいのルアーを

キャストできます。

同じML表記でもロッドの種類によって

適合ルアーの重さは変わります。

なぜなら、ロッドの太さや使われている材質、

技術によってまったく強度が変わってしまうから。

ルアーロッドならば、ほぼ全てのロッドに

適合ルアーの重さが表記されているので

そちらの数字を参考にして下さい。

今回はメジャークラフト社のスカイロードを

例にとって説明させていただきました。

いかがだったでしょうか？

ここで少し昔話を。

実は私、ルアーフィッシングを始めた時に

釣具店でテキトーに振り出し式の

ルアーロッドを買ってバスフィッシングに

チャレンジした事があります。

ちなみに振り出し式ロッドというのは

こういうヤツです。↓↓↓↓↓

当時、スピナーベイトが流行っていて

私はそのロッドを片手に

ワクワクしながら地元で有名な

メジャースポットへ出かけました。

釣り場に着いて新しい竿を出し

はやる気持ちを抑えてリールをセット。

スピニングリールでした。

ガイドと呼ばれる糸を通すワッカに

アレは確か・・・2号のナイロン

ラインだったと思います。

それを通してスピナーベイトにラインを直結。

「良し！行ける！」とかいって

木の下に出来たシェード、つまり

日陰に狙いを定めて第一投をキャスト。

「ふん！」　めしぃ！！！

ものすごく嫌な音と共に

新調したロッドがくの字に・・・。

どうやらキャスト時に竿先に

ラインが絡まったみたいです。

新調したロッドは無残な姿に。

ロッドと共に私の心も一撃で折れました。

アレをやってしまった時のヘコみ様と来たら

それはもうハンパないです。

そのまま片付けて、

まるでこの世の終わりのような

顔をして帰りました・・・。

後々わかった事なんですが、その振り出し式の

ロッドはバス様ではなかったのです。

適合ルアーもなんと10グラムまで。

まあ当然の結果でした。

ちなみに使用したスピナーベイトは

28グラムだったと思います。

しっかりとロッドの知識をある程度

勉強してから購入してチャレンジしないと

ダメだという教訓を得られました。

あなたは私ほど適当に準備して

”無謀”なチャレンジはしてはダメですよ。

【竿の調子とは？】

続いて**竿の”調子”**についての

説明をさせて頂きます。

ココはあなたの釣りのスタイル、性格にも

関係するところなので

しっかりと理解して頂ければ幸いです。

釣り竿にはそれぞれに”調子”というものがあり、

大きく分けると先調子、胴調子、本調子と

いうように三分割されています。

穂先から見て、

・穂先3：7竿尻までは先調子

・4：6～5：5くらいまでは胴調子

・6：4くらいからは本調子

と言った感じですね。

穂先と言うのは竿先の事。

竿尻と言うのは釣りをする時に

手で持つ方ですね。

”穂先3：7竿尻”と言うのは竿の長さを

10等分したときの割合の事で、

穂先を引っ張られた時にどの当たりから

曲がるかの位置を比率で示したものです。

下の画像を見てください。

このように曲がり易い方が3、

曲がりにくい方が7の割合で占められる

タイプの竿を先調子をいいます。

シーバスロッドはだいたいの竿が

この”先調子”で、これを基準に

2：8や4：6などの竿も存在します。

何故かと言うと5：5より本調寄りの調子は

ルアーをキャストするというアクションに

向いていないんです。

【ちょっと想像してみてください】

ルアーを飛ばすときは竿の長さから発生する

遠心力で飛ばしているように思いますよね？

もちろんそれも関係します。

ですが、

ほとんどは**ロッドが曲がった時の反発力を**

使ってルアーをキャストしています。

そうですね・・・、

反発力8：遠心力2くらいの割合の要素で

キャストしていると思っていいです。

コレには**大きな理由**があります。

ルアーフィッシングの場合、

一回の釣行でルアーをキャストする

回数がハンパではありません。

まさに数で勝負！みたいな感じ。

遠心力だけに頼ってキャストするという事は

何度も何度もロッドを可能な限りの大振りで

振らなければならないため、

すぐに疲れてしまう。

そのため、**ルアーフィッシングでは**

ロッドを後ろへ振りかぶってから

前へと振り向くときに発生する

反発力を使ってキャストする。

こうする事によってキャストする時の

フォームがコンパクトになり、

少ない消費体力でより遠くへ

ルアーを飛ばせます。

そして、コレを行うには

ロッドが先調子のほうが都合がいいのです。

先調子でないとロッドを後ろへ

振りかぶった時に竿先が大きく

後ろへ移動します。

つまり、反発力が生まれるまでに

時間がかかるという事。

ルアーは糸を使って振り回しているため、

反発力が生まれた頃にはルアーの位置は竿先から

かなりぶら下がった位置になります。

この状態でロッドを前へ振りぬくと

竿先を支点としてルアーが回転しようとする。

こうなるとキャスト時に竿先に

ルアーが絡まったり、変な向きの

力がかかって竿を振りぬく時に**ブレが出る。**

このブレがキャスト時のコントロールの乱れや、

手の打ちようのないライントラブルを

生み出すのです。

これらがシーバスロッドが

先調子である理由ですね。

参考までに、

コレとは違い、釣りには

投げ釣りという分野があります。

こちらはやや5：5寄りの比率になっています。

反発力10：遠心力10という

感じの釣りです。

かなり疲れます。（笑）

【釣りのスタイルや性格？】

あなたはどんなタイプの釣りを

しようと考えてますか？

実はこの調子の比率によって

長所、短所があるんです。

そのため、どの調子を選ぶかは

あなたの釣りのスタイルや性格を元にして

選ぶべきです。

簡単に説明すると、

2：8はせっかちな人に向いている。

4：6は気が長い人に向いている。

つまり、まとめますと

・竿の調子の意味

・シーバスロッドはほぼ先調子

・先調子である意味と理由

・選ぶタイプはあなたの性格次第

という内容についてお話させて頂きました。

【まずは2：8の先調子】

さてここからは、いよいよ2：8調子の

特徴や長所、短所などを解説して

あなたに合ったロッドを見つける

手助けをしていければと思います。

このタイプのロッドは竿の先端付近、

ロッドティップと呼びますが、

このロッドティップが

だいたい固めに作られています。

なぜなら、ここがロッドの

体幹部分に比べて極端に柔らかいと

全体的なバランスが悪く、

キャストするときにトラブルを起こします。

というよりは、

多分ロッドティップが折れますね。

だからと言ってロッド全体を

柔らかくしすぎるとクニャクニャで

投げにくく、しかも疲れます。

ですから、シーバスロッドに

限らずルアーロッドはキャストするルアーが

よほど軽いか、特別な理由がない限りは

固めに作ってあります。

そのため、ロッドティップにも

ある程度の固さは必要なんです。

こういった理由でロッド全体が固め、

表現を変えると”棒”に近いという事。

これによって当たりがあった時の合わせ、

つまりフッキングが

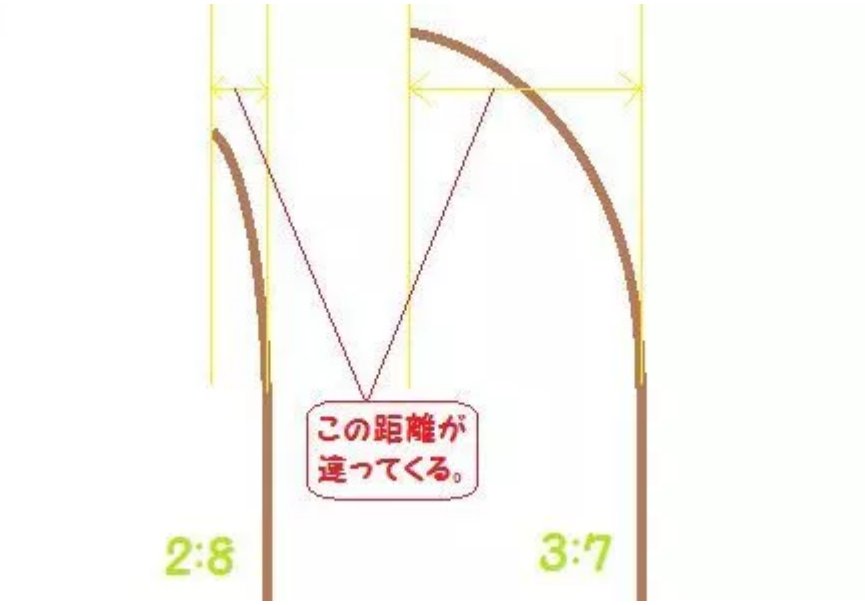
他の調子のロッドよりも速く出来ます。

というよりは、フッキングをした時の力が

速く魚に作用する

と言ったほうがいいですね。

ちょっと下の画像を見て下さい。



当たり、つまりシーバスのバイトを

感じた瞬間にロッドを鋭く煽ります。

この時、上の画像の説明する距離が

長ければ長いほどフッキングをした時の効果が

魚に作用するのが遅れる。

これは分かりますね？

ただ、注意して頂きたいのが

これはあくまで同じ条件、

つまり材質や長さ同じにして

調子を変えた場合に起こる事。

極端な話、6：4の本調子であったとしても

まるで物干し竿みたいな固さだとしたら

上の画像の距離は短くなります。

つまり、**先調子のロッドには**

こういう傾向があるという事。

実際にその距離を決めるのは

ロッドの固さが大きな要因を

占めているという事を頭に

置いておいて下さい。

ですが、物干し竿のような

本調子のロッドなんてそうそう無いので、

大体は調子である程度の予想が出来ます。

2：8のロッドはこういった特徴を持つため、

どんなに小さな当たりでも積極的にこちらから

フッキングしていくという

せっかちな人に向いています。

そして、構造上ルアーをキャストする

という事は無視できないので

ある程度の固さを備えてます。

すると、シーバスのバイトや

水流の流れ、地形の変化などを

感じやすくなります。

これらの大切な情報も読み取りやすく

フッキングが速いというのが長所です。

【ですが、その反面、】

こちら側の感度がいいという事は当然向こう、

シーバスに取っても感度がいいという事。

シーバスにもガンガン衝撃が伝わるため、

パニックになって大暴れします。

その結果、フックが刺さっている傷が

開いてしまい、おまけに

ロッドが固すぎて柔軟に対応できず

バラしてしまいます。

更に大暴れするために

他のシーバスも逃げてしまい

フィールドを荒らす事になってしまいます。

ただ、ロッドを振りぬく時の反発力が強く、

ルアーが飛行する時の初速がかなり速いです。

この影響でルアーは良く飛びますが、

ライントラブルを

起こす比率が高くなります。

まとめますと、

・2：8の先調子はフッキングが速く、

ロッドが固めでせっかちな人に向いている事。

・感度が良く、シーバスの当たりや

フィールドの情報を得やすい事。

・フィールドを荒らしやすくバラし率が高い、

そしてちょっぴり

ライントラブルを起こしやすい事。

ですね。

最後に**”感度”**に関する部分ですが

これも先調子にはこういう傾向があるということで、

厳密に言うと”素材の弾性”が秘密を握っています。

次はそちらの内容を胴調子、本調子と共に

説明させて頂きます。

【素材の弾性とは？】

ではさっそく素材の弾性、

胴調子と本調子について話していきます。

2：8の先調子のロッドには、

・フッキングが速い

・固めの竿が多い

・感度が高い

・魚をバラしやすい

という傾向があることを話しました。

では、なぜ「傾向がある」という

フワッとした表現を使ったのでしょうか？

はい、実は本当の理由は

ロッドを形成する材料の材質に影響されるから。

今はいろんな物質が実験されて

様々な材質の材料がロッド制作に使われています。

基本的には新しく使われた素材や

弾性が強い素材を使って作られたモノのほうが

料金が高くなります。

私もいろいろと試してみたいんですが

”懐の寒さ”が頑としてそれを

許してくれません。(^_^;)

おっと、すいません。

寒い世界へ迷い込むところでした。

話を戻します。

弾性が強いということはつまり硬いという事。

ロッド材料の**硬度が**

全ての特徴をつかさどります。

そして弾性が強いと言う事は

強い反発力が生まれるという事。

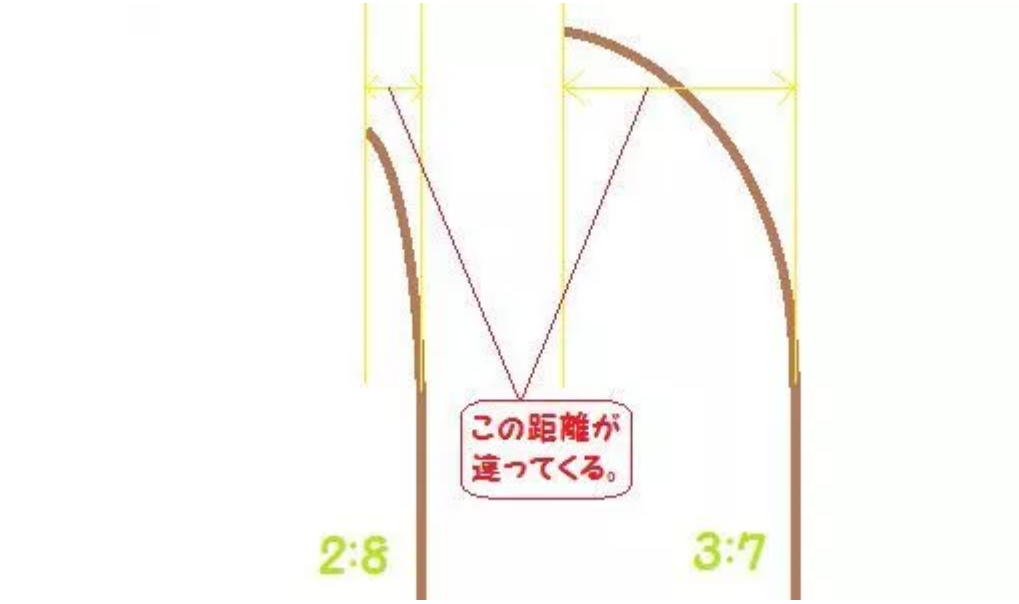
だから、シーバスロッドには

キャスト時の反発力を生み出すために、

固めのロッドが多いのです。

そしてこれは先ほど説明した例の画像、

↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓↓



上の画像の説明する距離が

長ければ長いほどフッキングをした時の効果が

魚に作用するのが遅れる。

つまり、硬度はフッキングの速さに繋がります。

そして、固いゆえに魚をバラしやすいんです。

これも材質の硬度が高いから。

さらに、ちょっと**想像**してみてください。^^

あなたは今、新聞紙を丸めたものと

鉄のパイプを持っています。

これから、意味も無く新聞紙を丸めた棒と

鉄パイプで近くにある電柱を、

まるでバットでボールを打つかのように

打ち抜きます。

もちろん想像の世界で。

結果、どちらが手が痛そうですか？

・・・。

これは実際にやらなくても

簡単に想像できると思います。

後者、つまり鉄パイプのほうが

圧倒的に手が痛いですよね？

これは何故か？

そう、**材質の硬度**です。

使っている材質の硬度が高ければ高いほど

衝撃はダイレクトに手に伝わります。

だから硬度が高く弾性が強いロッドほど

感度がいいのです。

つまりは、竿の調子によって

固さや感度が変わるのではなく

本当の原因はこの**”硬度”**なんです。

ただ、

シーバスフィッシングに適したロッドを

作りあげるために

いろんな要素を盛り込んでいった結果、

先調子のロッドは固くなる傾向にある。

これが真実です。

だから「そういう傾向にある」と言う

フワッとした表現を使ったのです。

では、これらを理解して頂いたところで

胴調子、本調子のロッドの特徴を

説明させてください。

【まずは胴調子】

穂先、竿先の方からみて

4：6～5：5くらいの調子のロッドです。

シーバスロッドではあまり見かけません。

なぜなら、

キャストしにくいからです。

先調子のロッドよりもほん少しだけ、

後ろへ振りかぶった時にタメを長く取らないと

上手く飛ばせません。

これは先調子よりも

ロッドの反り返りが大きいためです。

そのロッドの反発力を最大にするための

前へ振り抜くタイミングを

しっかりと合わせなければいけません。

ですがこれは、

最初にどちらに慣れているかに寄ります。

先調子のキャストに慣れているなら、

胴調子のロッドは慣れるまでキャストしにくい。

逆に胴調子のキャストに慣れているなら、

先調子のロッドは慣れるまでキャストしにくい、

ということです。

そして、反発力のストロークが

先調子よりも長いため、飛距離は出ます。

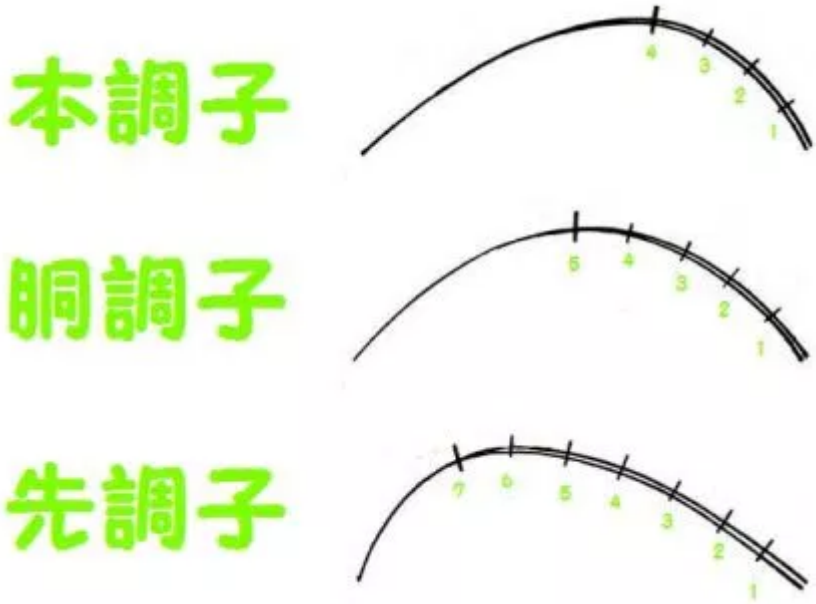
その半面、一回の動作にかかる時間と

消費体力が多くなるため

キャスト回数に比例して疲れも増します。

ただ、先調子のロッドにくらべて

大型のシーバスをいなしやすいです。



【では次に本調子】

こちらはもっと大変。

多分シーバスロッドでは

存在しないんじゃないかと思う。

先調子のロッドのくらべて

かなり大きくタメを作らなければ

ロッドの性能を活かしきれません。

バックスイング型のキャストでは

ラインが絡まってしまうので

最初から自分の後ろにルアーをぶら下げておくとか、

ルアーを振り回してキャストする事になります。

最も飛距離が出る反面、

消費体力が最も大きく、

一日に100回キャストするのはアスリートレベルの

鍛え方をしてる人でないと厳しいです。

ですが、ロッドが曲がる支点が重心付近で

ロッドの持つ力を最大限に発揮できるため、

超大物に対応できます。

以上がロッドの調子による違いの説明でした。

最後にあくまでこれは

シーバスフィッシングにおける

各調子の見解です。

本気で全てを説明しようとすると

辞書くらいの容量になってしまうので

シーバスフィッシングで必要な程度にしか

説明してません。

間違ってもこの知識でへら竿を

作っているような方たちと

お話しない事をオススメします。

いいロッドに出会えるといいですね。

始めてのタックル

タックルを選ぶ基準ですが、

これはあなたのホームフィールドの

規模の大きさや条件、釣りのスタイルによって

大きく変わってくるものです。

ここでは**その目安**について

ざっくりとお話させて頂きます。

【漁港】

この漁港というフィールドは

大きなものから小さなものまでありますが

基本的に選ぶロッドの長さは

8から8.6フィートをオススメします。

そしてなおかつ、リールシートから

グリップエンドまでの距離が短めで、

リールを付けてロッドを握ったときに

グリップエンドがあなたの肘に

当たらないくらいの長さののものがオススメ。

リールシートとは、

リールを付ける場所の事です。

グリップエンドとは竿尻の事です。

リールについては、

ダイワなら2500番、

シマノなら3000番をチョイスしましょう。

PEラインは1.0号をオススメします。

店頭でご購入される場合は

リールといっしょにラインも購入して、

必要であれば店員さんにリールの**”下巻き”**を

お願いしてください。

通常、シーバスラインは100から150メートル

くらいの長さで販売されています。

ですが、リールのスプールの溝が深いと

ラインを巻いた時の直径が小さくなってしまい

リール本来の糸巻き性能を

発揮できなくなってしまいます。

そのため、リールのスプールの溝の直径を

カサ増しするのに捨て糸を余分に巻く、

下巻きと言われる方法を使う事があります。

スプールとは、リールの糸を巻く部分の

部品名になります。

スプールの溝とはラインを巻くために

くぼんでいる部分の事です。

このスプールにも種類があって、

通常のたくさん糸が巻けるスプールと

あまり巻けないシャロースプール、

シーバスラインにちょうどいい事が多い

ミドルスプールがあります。

購入されるリールも含めて

まず最初に店員さんにシーバス初心者

であることを伝えて相談しながら

準備されるのがオススメですが、

一応けっこう適当な店員さんもみえるので

念のため知識として知っておいてください。

【港湾部】

この港湾部というフィールドは

いわゆる貿易や物流に使われる

大型船も対応できる**広大な港**です。

基本的に広大で漁港に比べ

コントロール性だけではなく

ルアーの飛距離も重視しなければなりません。

ですからロッドは**9フィート前後**のものを

オススメします。

リールについては同じく

ダイワなら2500番、

シマノなら3000番で大丈夫です。

ラインは1号か1.2号がオススメ。

1号が一般的です。

【河口】

この河口に関してはよほどこじんまりとした

小さな河川の河口でない限り、

広大なフィールドがほとんどです。

そのうえ**手前のほうが浅いという**

遠浅の地形がほとんどで、

圧倒的な飛距離が必要になります。

ですから、ロッドは9.6から12フィートで。

リールはダイワなら3000番、

シマノなら3500番をチョイスしてください。

狙うポイントが遠く、ルアーの

回収に時間がかかるため、

ハイギヤのリールをオススメします。

ハイギヤのリールとは、通常のリールよりも

ハンドル一回転当たりの糸巻き量が

長いリールの事で、店員さんに聞けば

教えて頂けると思います。

一応分かりにくいですが

リールや箱にも表記されています。

ラインは0.8から1号がいいですね。

ただし、底の地質が砂泥底ではなく

岩盤、岩礁の場合は太めのラインを

オススメします。

【河川】

この河川というフィールドは

大小さまざまな場所があり、

中には橋の下や、キャスト時に後ろに

壁があるなどの特殊な条件下の場所も

少なくありません。

ですから、ロッドは8.6から12フィートまでで

選んで、その一つ下の長さのロッドを

チョイスしてください。

というのも、河川においては基本的に

手前のポイントから狙っていく場合が多く、

結構接近戦になるパターンがあります。

そのため、あまり長すぎるロッドは

取り回しが悪く、快適ではないので

そういった選び方を**推奨**しています。

ですが、あくまで目安ですので、

この河川というフィールドに対しては

今までのお話を参考にあなたのホームに

最も適している組み合わせを

選んで頂くのがいいでしょう。

リールは選んだロッドにあわせてください。

ラインは狙う場所、地形、状況にあわせて

考えて選んでみてください。

以上がざっくりとした、

タックル選びの目安でした。

なお、私は初心者の方に

サーフ、磯、ゴロタ、大河川などの

フィールドは推奨していません。

というのもこれらのフィールドは

他のフィールドに比べて危険度が高く、

シーバスフィッシングの危険に関して

あまり体験されていないはずの

あなたの身を守るためです。

それらのフィールドへ行かれる際は

必ず熟練者の方に同行して

教えてもらってくださいね。

つぎはいよいよシーバスフィッシングに

必要なアイテムたちのお話に入っていきます。

必要になる道具たち

【絶対に必要な物】

あなたがシーバスフィッシングを始める上で

必ず必要になる物があります。

順番に見ていきましょう。

<シーバスロッド>

私はシーバス専用ロッドを

オススメしています。

ですが、手持ちの竿でルアーの

キャスティングが出来て

しっかりと曲がってなおかつ力のある

ロッドならば問題なく使えます。

そういったロッドをすでにお持ちの場合は、

とりあえず手持ちの

ロッドで始めてみてください。

その後、シーバスフィッシングを

「おもしろい！」と思って

本気でやっていこうとなったら

シーバス専用ロッドを購入される

事をオススメします。

15000円前後のシーバス専用ロッドを

選んで頂ければ問題ないです。

<リール>

リールについては基本的には

ダイワ製なら2500番、

シマノ製なら3000番を選んで下さい。

コレはシーバスのパワーと

ロッドとのタックルバランスを

考えた数字です。

9フィートまでのシーバス専用ロッドを

購入されるのなら、

このくらいのリールになります。

<ライン>

私は、**PEラインという**

感度と強度に優れたものを推奨しています。

なぜなら、シーバス専用ロッドを使うのなら

PEラインの感度という要素を合わせれば、

タックル力に相乗効果を与えられるから。

シーバスフィッシングを突き詰めていく上で、

いずれ必要な時期が来ます。

ロッドとリールを新調される場合は

使用を考えてみてくださいね。

<フローティングベスト>

私のブログ内では

ゲームベストと呼んでいます。

ルアーフィッシングに必要な道具を

一式まとめて装備可能な

安全性、快適性に優れたゲームフィッシング専用の

フローティングベストです。

いわゆる**救命胴衣**ですね。

最近はフィールドによっては

救命胴衣を着用していないと

入れない場所もあります。

無しで落水した場合は

あなたもろくな事になりませんし、

まわりで釣りをしている人にも

迷惑がかかります。

近くに浮き輪になるような浮力のあるものが

無ければ救命胴衣を着た人が飛び込んで

落ちたあなたを助けなければならない。

最悪、助けに飛び込んだその方も

命を落とす事になります。

そして、コレも**シーバスフィッシングを**

突き詰めていく上で必ず必要になります。

圧倒的に便利ですから。

安いものなら5000円ほどで手に入ります。

<ルアーケース>

ルアーフィッシングをするには

このルアーをしまっておくケースが

必ず必要になります。

ただ、このケースを選ぶ時に

一つ注意点があります。

先ほどお話したゲームベスト、

このベストの大きな前ポケットに入る、

フィットしたサイズのケースを

選ばなければいけません。

これはお店で照合してみてくださいね。

＜必要最低限のルアー＞

これは**フィールドにも関係してくるので**

難しいんですが、私個人的には

サイレントアサシン99Fとレンジバイブ、

ローリングベイトをオススメします。

もちろんすでに決まっているのなら

それで行きましょう。

<ショックリーダー>

先ほどラインのところでお話した

PEラインですが、

摩擦に弱いという弱点を持っています。

そのため、シーバスを釣る際に起こる

根ズレと呼ばれる、

ラインが障害物などにスレて切れる現象を

防ぐためにリーダーというものを使います。

これはショックリーダーと呼ばれる

フロロカーボンやナイロンで出来た太めの糸です。

基本、50センチ～一ヒロくらいの長さで

PEラインの先に結束します。

<スプリットリングプライヤー>

ラジオペンチくらいの大きさの

しっかりとはさむ力のあるものを

選んでください。

この道具は、シーバスに刺さったルアーフックを

安全に外すために必要になります。

本来はスプリットリングと呼ばれる

金属製の輪っかを脱着するための

ものなんんですが、併用出来ます。

ですから、ラジオペンチなどではなく

スプリットリングプライヤーを始めから

購入される事をオススメします。

<タモあみ>

波止で使うような柄の長いものではなく

ゲームベストの背中に背負えるくらいの

短い柄のものにしてください。

あみの部分が外れる仕様のものなら

柄だけで売っているものがあるので

合うかどうかを確認して短くて5メートル

くらい伸びる物に交換してください。

釣りがけっこう楽になります。

こちらもいろいろとあって分かりにくいので

店頭で店員さんに相談しながら選ぶと

いい感じになります。

<ライト>

これは頭に着けるものか

ゲームベストに付けられる物を選んでください。

先ほどの”たも網”もそうですが、

いかに自分の手で持つ道具をなくすかが

快適に釣りをする秘訣です。

装着型のライトを選んでください。

シーバスをやると

必然的に夜の釣行が多くなります。

ですので、ライトが無いと

ルアーを交換する時や

ラインを結ぶ時、魚を外す時に

かなり困ります。

っていうか、無理です。

<ライター>

これは**PEライン結束時に必要**になります。

主にPEラインとリーダーを結束する際に

長すぎていらないPEラインをカットする時

ギリギリでカットすると結び目が解けてしまいます。

これはPEラインが編み込み式で作られている為に

カットした先からほつれてきてしまうため。

ですからその先をほつれないように

ライターであぶって丸めてしまう訳です。

<ダストケース>

ルアーフィッシングでは

ライン結束時や、ルアーフックの交換時に

小さなゴミが出ます。

これを持って帰るために

私達シーバスアングラーは

もれなくみんなダストケースを装備しています。

ようは小さなゴミ箱ですね。

コレも必需品なので

よろしくお願い致します。

以上が必要最低限の道具ですね。

まとめますと、

とりあえずは手持ちのタックルで始めてみて、

本格的にやるなら専用ロッドなどの

シーバス専用タックルを買いましょうという事。

そして、

あなたがシーバスフィッシングを

始める上で必要最低限の道具は、

・タックル

・フローティングベスト

・ショックリーダー

・必要最低限のルアー

・ルアーケース

・スプリットリングプライヤー

・タモあみ

・ライト

・ライター

・ダストケース

これらがあれば始められるという事。

【持っていた方がいいアイテム】

それではここからは

シーバスフィッシングをするうえで

持っていた方がいいアイテムについて

お話させてください。

＜フィッシングクリップ＞

魚の下口をはさむアイテムです。

一度挟んでしまえば、ほぼ外れる事はないので

持っているとかなり役に立つ道具ですね。

実は魚というのは頭の動きを封じてしまうと、

そのほかのほとんどの動きを

封じ込める事が出来ます。

ですから、このクリップを使うと

大きな魚でも片手で持ち上げたり、

運んだり、安全にルアーフックを

外す事が出来るようになります。

そのホールド力はとても信頼できるので

状況に寄ってはランディングツール

としても使えます。

ランディングツールとは、

先ほどお話させて頂いたタモ網などの

魚の取り込みをするために使う道具です。

ようは魚を掛けて寄せてきた時に

完全に勝敗を決めるためのツールですね。

<スナップ>

リーダーの先に結束する金属の金具です。

ルアーを交換する時に

短時間で簡単に取り替えるためのアイテムです。

これは使う人と使わない人に分かれます。

「えっ、私ですか？　私は使う派です。

基本、せっかちで面倒くさがりなんで。」（笑）

冬場に手がかじかんでる時などは

ラインが結束しにくいので、

スナップがあると凄く助かります。

ですが、欠点もあります。

たまにルアーを見切られる事があります。

ほとんどありませんけどね。

そして、もう一つ。

ほとんどリーダーを交換しなくなるので、

毎回しっかりリーダーのチェックをしないと

ラインブレイク率が高くなります。

＜ラインカッター＞

リーダーやPEラインをさくっと

切ることが出来ます。

基本的には先ほどお話させて頂いた

スプリットリングプライヤーという

アイテムに付いています。

ですが、ラインカッターは

スプリットリングプライヤーと違って

繊細なラインカットがやりやすくなります。

ラインを切る位置をミリ単位で

調整したい方や頻繁にラインの結束をする人に

必要なアイテムです。

<グローブ>

釣具店で売っている釣り専用の手袋です。

ルアーフィッシングに限らず釣りというのは、

針や小さな刃物を扱うことが多い趣味です。

ラインで手が切れる場合もありますし、

魚によっては結構痛いデンジャーな奴もいます。

トゲに毒を持ってるやつなんかも居ますよね？

非常に長くなるのでココでは

説明を省きますが、実は有事の際

あなたの命を守る道具にもなります。

基本的には装備しておいたほうが

いいアイテムの一つですね。

＜ウェーダー＞

水の中に立ち込んで釣りをする時に

必要になります。

大きく分ければ、

・透湿素材製ウェーダー

・ナイロン製ウェーダー

・ネオプレーン製ウェーダー

の三種類に別れます。

シーバスアングラーが使うもので

考えた場合ですが。

さらに、他にも細かい要素が組み合わさって、

あなたの使うウェーダーが決まって来ます。

購入されるのであれば店頭へ行って、

シーバスフィッシングに詳しい店員さんに、

「コレコレこういう場所で釣りをするんだけど、

どのウェーダーを選べばいいのか教えて。」

と聞いてください。

コレは必ずです。

でないと、非常に使いにくいだけでなく

下手をすれば使えないものを

選んでしまう結果になります。

現時点では必要ないので、

本気でシーバスをやろうと思ったときに

検討してください。

<ストリンガー>

魚に細いロープを繋いで

水中で活かしておく道具ですね。

クロダイを釣る方が良く使ってますね。

これも特には必要ありません。

クロダイが釣れたら持って帰りたい

シーバスアングラーが装備してます。

＜小物入れ＞

ルアーフィッシングではルアーの他に

スナップやスプリットリング、

予備のルアーフックなどの小物を収納する

ケースがあったほうが便利です。

これはどちらかといえば

”必ず必要なもの”に近いです。

必要最低限の道具を揃えたら

次に購入するのはコレですね。

絶対に必要ではありませんが、

先に買っておく事をオススメします。

<メジャー>

はい、魚のサイズを図るためのメジャーです。

少しかさばりますが、

どうせ買うなら釣具店で写真でもよく見える、

見せるためのメジャーを

買ったほうがいいですね。

なぜなら、

あなたのメモリーフィッシュとして

思い出とともに写真に残しておけるから。

また、それを見せて

釣り仲間との釣り談議も弾みます。

あると嬉しいアイテムですね。

<ウェットスーツ>

コレはかなり特殊なアイテム。

磯でヒラスズキをやる人に必要なものです。

またはホームフィールドが

大型のテトラポットしかなくて

テトラの上で釣りをする人です。

こういったフィールドはかなり危険度が高く、

行く回数に比例して

落水する確立が上がります。

ウェットスーツというのは

分厚くて守備力が高いです。

そのうえ、実は浮力があります。

ですから、

磯場などのゴツゴツした場所で

落水した場合にあなたの身体を守ってくれます。

波に揉まれて磯に身体を打ち付けられるので

必ず必要な装備です。

まあ、現時点では

まったく必要ありません。

<ヘルメット>

上記と全く同じフィールドで

セットで必要不可欠な装備品です。

同じく落水時や転倒時に

あなたの頭を守ってくれます。

磯場、大型テトラがホームフィールドの

方は必ず着用されることをオススメします。

コレも現時点では

まったく必要ありません。

まとめますと、あなたが

持っていたほうがいいアイテムは

・フィッシングクリップ

・スナップ

・ラインカッター

・グローブ

・小物入れ

・メジャー

があると快適になる。

そして、

・ストリンガー

・ウェーダー

・ウェットスーツ

・ヘルメット

などが、状況に応じて

必要になるアイテムだという事です。

ライフベストについて

シーバスフィッシングとは楽しむべきもの。

そしてそれを楽しめるかどうかは

すべてあなたの選択にかかっている。

あなたはもしかしてライフベストについて

ほんの少しでもあまく見てはいないだろうか？

これから

いちばん大切なことをお話させて頂きます。

しっかりとお付き合いくださいね。

では、さっそく。

ライフベストとは？、

いわゆる救命胴衣の事で

実に様々な呼び方をします。

ライフジャケット、ゲームベスト、

フローティングベストなどなど

使用用途によっていろんな呼び方をされます。

本来の目的である”浮く”と言うのは共通ですが、

細かいところで違い、

使用用途によってその形態を変えます。

命の守り方を知りたくはないですか？

私たちシーバスアングラーが使うのは

ゲームベスト、フローティングベストと

呼ばれる事が多いですね。

今回は**ゲームベスト**と呼んで

説明させて頂きます。

【認識しておくべき必要性】

もちろん言うまでも無くベストは

あなたの命を守るためですが

コレでは「だよね～」ぐらいにしか

思わないので**ガッツリいきます。**

突然ですが、あなたは

落水して流された事がありますか？

普通はありませんよね？

実はこの経験がある人は

救命胴衣に関して

かなりしっかりと正しく着用しています。

私は流された事はないですが

実は落ちた事はあります。

私も落ちるまではその危険性を

なめてかかっていました。

そう、**分かっているつもり**だったのです。

私たちは、幼い頃から

プールという場所で

水に慣れ親しんできました。

別に落ちても泳げるから

特に問題はないと・・・。

ですが、実際に落ちて見ればわかります。

あっ、別に落ちるのを進めてる

わけではありません。

プールではスイスイ泳げるし足も付くし、

プールサイドの際へ行けば手を付いてピョンと

ジャンプすれば簡単に上がれます。

このように特に危険はなさそうで

溺れている人すら助けられると思うでしょう。

確かにプールであれば可能です。

では、ちょっと想像の世界で

私と落水してみましょう。

「誰がお前なんかと」と思ったら

一人で落ちてみてください。（笑）

当然、泳ぐ気は全く無いので

あなたは服を着ています。

短パンやピチピチのタイツみたいな

ものを履いていればいいですが、

もし、ゆったりとしたズボンなどを

履いていたら・・・。

落ちて見ればわかりますが

実は衣類というのは水中で手足を動かす際に

かなり強い抵抗になります。

この抵抗力が身体の動きを抑制してしまい、

本来なら勢い良く水を蹴る事が出来る足が

満足に動かせずに

水中で推進力を生み出せません。

さらになんとか泳げたとします。

自然のフィールドの水中で

しかも足が付かないような場所で

プールサイドのように

「いつでもお上がり下さい」みたいな

上陸し易い岸際などほぼありません。

しかも海水エリアであれば岸際は

「お上がり下さい」というよりは

どこに触れても貝殻などで皮膚が

切れてしまう、蟻地獄のような

まさにトラップ状態です。

仮にプールサイドのような

親切な岸際があったとします。

ですが、簡単に上がれると思ったら大間違い。

足が付くから簡単に上がれるんです。

誰かに引っ張りあげて貰えれば

軽症で済みますが、ひとりならば

貝殻などが付いている岸壁などに

抱きつかなければ上がれません。

この時はかなりのダメージを覚悟して下さい。

そして、**靴。**

落ちたら、泳ぐ時に靴を脱ぐ事があります。

ですが、**靴は捨ててはいけません。**

スニーカーであれば僅かに浮力を得られますし、

岸際へ上がる時に強力な防具になります。

どうでしょうか？

落水した時のことをリアルに想像出来れば、

どれくらい危険なのかが分かって頂けるでしょう。

もちろん落ちないのがベストですが、

もし落ちてしまった時、

自動的に浮いていられたら・・・。

かなり冷静に対応できますよね？

必要性に関しては

十分に分かって頂けたと思います。

【ゲームベストを推奨する】

自動膨張式の救命胴衣もありますが、

あんなのはルアーフックやフジツボで秒殺です。

しっかりしたゲームベストを選びましょう。

ゲームベストとは、

落水しても水に浮いていられる**浮力体入り**の

ルアーケースなどをしまっておける

便利なベストのことです。

ルアーフィッシングを始めると

かならずルアーをしまうための

ケースが必要になります。

こういうやつですね。↓↓↓↓↓↓↓

ぶっちゃけ、このケースがあれば、

シーバスフィッシングは出来てしまいます。

ですが、落水したら・・・。

最初からゲームベストを

入手する事を推奨します。

シーバスフィッシングをやり進めば、

遅かれ早かれ

必ずゲームベストが必要になります。

ですからケースを買うときは

すぐに買うであろうゲームベストの

前に付いている大きなポケットに

いい感じに収まるケースを選ぶと

後からケースを買い換える出費と手間を無くせます。

実際に釣具店でケースとポケットの

大きさを照合してみましょう。

ケースを適当に買うのではなく

あなたが買うゲームベストのポケットのサイズで

ケースを選ぶと無駄がなくなります。

そして、ゲームベストには

大きな利点があります。

シーバスアングラーが使うライフジャケットは

”ゲームベスト”とも呼ばれていてその名のとおり

ゲームフィッシングに特化した

作りになっています。

ゲームフィッシングとは

リリースを前提とした釣ることだけを楽しんで、

釣り上げたらなるべく魚にダメージを与えずに

速やかに水に返してあげる釣り。

さらに

ルアーケースはもちろん、

プライヤー、ストリンガー、小物入れ、

フィッシンググリップ、ランディングネット、

などなどのルアーゲームに必要なあらゆるものを

コンパクトに装備出来るように作られてます。

なおかつ、装着していると安全で

圧倒的にカッコいいので、

超高いけど最初から買っておいたほうがいいです。

それに場所によってはライフジャケットなどの

救命胴衣を身に付けていないと釣り禁止、

又は立ち入り禁止の場所もあります。

あなたもあなたに関わる人達も

安全に楽しく遊べるように

始めから準備しておくことを強くオススメします。

仲間との楽しい釣りのはずが

仲間が水難事故に会って・・・、

なんて、

「マジでシャレになんないから。」

そして、**選ぶ際は法の定める基準を**

満たしている物を選んだ方が安心です。

ゲームベストには**浮力の数値**が

表記されている物がほとんどです。

7.5キロとか8.5キロとかですね。

これは浮力の表記で法の定める

安全基準では7.5キロ以上と決まっています。

7.5キロというのは大人が水面から

頭を出した状態で浮いていられるくらいの浮力で

厳密にはたしか**その浮力を24時間以上**

キープ出来る事が

安全基準の条件だったと思います。

ゲームベストには結構重たい道具とかも

装備するので

私、個人的には8キロ以上を

推奨しています。

【持っているだけでは意味が無い】

せっかくのゲームベストも

その**優れた効果を発揮できる**

正しい使い方をしなければ救命胴衣としての

役割を果たしてくれません。

正しい着用方法に関しては

ベストのタイプによって違ってくるので、

それぞれの使い方を

詳しく理解しておいてくださね。

どのタイプにも共通して言える事は

ゲームベストとは一番上から着るもので、

下に着ている服のボリュームによって

各位置の締め具合を

こまめに調整する必要があるという事。

基本的にはピッタリと身体にフィットする

締め具合にしてください。

イメージとしてはベストの首根っこを掴んで

上に持ち上げられても身体が下にずり落ちない

くらいのフィット感。

また紐と呼ばれるものが付いているベストは、

このまた紐の調整が鍵となります。

このタイプのベストはまた紐が無ければ

何の役にもたちません。

また紐がゆるゆるだった場合は落ちた時に

「無いほうがマシ」と言われるレベルの

役立たずになるので必ずしっかりと

調整してくださいね。

ゲームベストはしっかりと

身体にフィットしていないと泳ぐ時に

かなり邪魔になります。

なぜなら、**ベストが上にズレるから。**

ベストが浮いていて身体は沈んでいるみたいな。

とても泳げる状態ではありません。

少し表現は分かりにくいですが

水中に浮いている物体は基本的に接触していれば、

それは一つの物体とみなされます。

重い部分が沈んで軽い部分が浮きます。

つまり、ベストが身体の上にズレていれば、

ベストが浮いて頭が沈みます。

ペットボトルを抱いていれば

その部分が一番上になった状態で浮きます。

つまり、のけぞった姿勢で浮くという事。

浮き輪を足で挟めば足が浮いて

身体と頭が沈むんです。

身体の前に浮力体があれば身体の前が浮きます。

背中にあれば背中が浮く。

ようするに、**正しく着用しないと**

あなたの呼吸器が水没する可能性が高いのです。

とても大切なことです。

あなたは良き思い出を作るために

釣りにいくのです。

悲劇を生むために行くのではありません。

楽しむために必要な知識です。

絶対に忘れないでくださいね。

必要最低限のルアー

シーバスフィッシングを始めるあなたが選ぶべき

必要最低限のルアーとは？

上のレンジから、

・TDソルトペンシル9F

・ジャクソンにょろにょろ10.5

・ロンジン　フランキー125F

・ラッキークラフト　ワンダー80

・バスディー　レンジバイブ70ES

が、上の画像のルアーたちです。

レンジとはタナのことで

この場合はルアーが泳ぐ泳層の事を指します。

今回はこれから始めるあなたが

最初に揃えるべき

ルアーを考えてみました。

（注）

このルアー選択は

私の独断と偏見に満ち溢れています。

参考程度に考えてね。(^_^;)

【レンジとはルアーや魚の泳層の事】

シーバスにバイトさせるには

ルアーのレンジをその時シーバスが狙っている

レンジに合わせる必要があります。

バイトとはシーバスなどが

ルアーに食らいつく行為。

どういう事かというと、

あなたが釣り場に着いた時に

フィールドでは水面下100センチの水深を

イワシが群れで泳いでいたとします。

そして、水面下300センチくらいには

イワシの群れを狙うシーバスが数匹、

イワシのスキをうかがって

攻撃準備をしていたとします。

いや～、

イワシに生まれなくて良かった。

この時、あなたがシーバスを狙うのならば、

キャストしたルアーの泳層、

つまりルアーを引いてくる水深を

イワシたちがいる100センチに

ほぼ合わせる必要があります。

何故かと言うと、

シーバスという魚はとても**偏食性が強い**からです。

偏食性とは食べる物が極度にかたよる事。

つまり、イワシを狙っていたのなら

そこにイワシ以外のベイトが

通りかかったとしても、

シーバスはそれを無視します。

そう、目の前をよほど美味しそうに

通りかからない限りは。

ベイトとは、捕食対象になっている

生物を総称してそう呼びます。

ようするに、あなたのルアーを

そのイワシたちの中の一匹だと

シーバスに思わせる必要があります。

【ルアーには個性がある】

このようにそのときのフィールドの

状況によってシーバスのレンジは変わります。

そのため、ルアーにはそれぞれに

個々のレンジが設定されています。

そして、この**狙うレンジによって**

使うルアーを選ぶ事になります。

そして、先ほど紹介した上の5つのルアーを

持っているとほとんどの状況に対応する事が

可能になります。

オススメカラーは

・TDソルトペンシル9Fはカタクチ

・ジャクソンにょろにょろ10.5はパールチャートバック

・フランキー125Fはボラクリアー（クリアマグマ）

・ラッキークラフトワンダー80はスティンレッドゴールド

・レンジバイブ70ESはHH-02 ハイトホロピンク

ですね。

カラーの選択は

あなたのインスピレーションで

選んで頂いてもいいと思います。

ですが、**ロンジン　フランキー125Fだけは**

ボラクリアー（クリアマグマ）

にしておく事をオススメしておきます。

理由は私の経験上、

フランキー125Fに関してはこのカラーが

いちばん凡庸性が高いから。

このフランキー125Fが

あなたのパイロットルアーとなります。

パイロットルアーとは本来、

・フィールドに立って一番最初に投げる

・信頼のおける最も使用頻度が高い

・何をしても釣れないからとりあえずコレ

・優れた飛距離を持つ

・シーバスのホットレンジ付近を泳ぐ

と、言うルアーの事で

基本的にはミノーの中から選びます。

この**フランキー125F**が

あなたのシーバスゲームを組み立てていく上で

軸となる相棒になります。

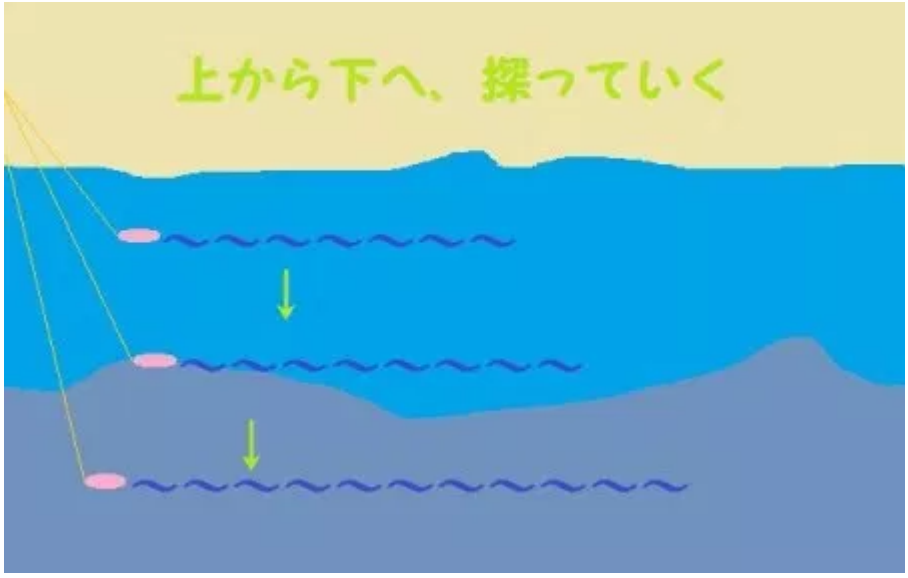
ですが、ここで一つルアーフィッシングの

基本を覚えておいてください。

「ルアーフィッシングでは

上層のタナから順に下のタナへと

探っていくのが基本となります。」



コレはなぜかというと、

泳いでいるルアーの上には釣りのシステム上

どうしてもラインが付いています。

これがルアーの上の水中を

ルアーとともに移動することになります。

魚からラインが見えないとしても

なにか異質なものが

水中を通過しているのが分かってしまう。

すると、コレに違和感を感じて魚が逃げたり、

警戒して捕食行動を

やめてしまったりするのです。

いきなり底の層から探ると

上から下まで全ての泳層をこのラインが

通過することになります。

これを一投目からやると

いきなり底以外のレンジにいる

全ての魚を警戒させるという、

一撃でフィールドを台無しにしてしまうという

悲しい結果を招きます。

シーバスとベイトのレンジが釣る前から完全に

分かっているとき以外は

上から探る事をオススメします。

【釣れるルアーとは？】

シーバスフィッシングの経験を積んでいく事で

あなたが持つべきルアーが何なのか、

だいたい決まってきます。

よく、始めた頃は

”釣れるルアー”を

探してしまいます。

実は私もそうでした。

ですが、シーバスフィッシングを突き詰めていく中で、

釣れるルアーという考え方が

間違いである事に気が付きました。

もちろん、わずかですが

そういったルアーも存在します。

例をあげれば、

レンジバイブやスーサン、ローリングベイトなどが

コレに当たりますね。

でもね、

実際にあなたが釣りをしてみてその結果出来た、

お気に入りのフィールドやお気に入りの釣り方、

どんな釣りを得意とするのかによって、

あなたの相棒が決まってくる。

「こんなふうに釣りを展開したい！

だったら、あのルアーが必要だ！」

というのが、**本当の流れ**なんです。

わざと釣れないように作られた

ルアーなんて一つも無いんです。

ルアーが魚を釣るんじゃない、

あなたが、魚を釣るんです。

つまり**ルアーは使いこなすものであって、**

ルアーがいいから魚が釣れる訳ではないという事。

コレを分かっていれば

あなたがルアーに惑わされる事はなくなります。

ルアーは使いこなして魚を惑わせるもの、

ですからね。

ぜひ、覚えておいてください。

そうそう、地域によっては

平均的なベイトのサイズが小さくて、

フランキー125Fでは

少し大きいなと感じるかもしれません。

そんな時はパイロットルアーである

フランキー125Fを**サイレントアサシン99F**に

変えて頂くといい感じに楽しめます。

このサイレントアサシン99Fもまた、

数少ないパイロットルアーとしての条件を備えた

優れたルアーの一つです。

あなたの状況に合わせて選んでみてくださいね。

ゴミ入れを準備する

フックや糸くず、

シーバスフィッシングにおいて必ず出る

細かいゴミがあります。

あなたはどうやって

これらのゴミを処理するだろうか？

始める時には気がつかない

これらのゴミの最終的な行き先。

シーバスアングラーたちの中にも、

「ルアーフックの錆びたり折れたりしたヤツが

溜まってるんだけど、

コレってどうやって捨てたらいいんだろう？」

と、処理に困っている人も実は案外多くみえます。

そんなわけで、ここでは

細かいゴミのクールな処理法

についてお話させて頂きます。

じゃ、さっそく。

【釣りで出る細かいゴミとは？】

シーバスフィッシングにおいて出る

糸くずや錆びたフック。

これらは釣りをしていく中で必ず出てきます。

例えば、何かにルアーが引っかかってしまって

上手く外す事は出来たけど、

フックが大きく曲がってしまった。

とか、

気がついたらトリプルフックのうちの一本が

折れてなくなっていた

な～んて事もあります。

折れたフックは言うまでもないですが、

大きく曲がったフックも実は曲がりグセがついて

極端に強度が落ちるため

交換するのが得策です。

ルアーフックというのは

スプリットリングと呼ばれる、

あなたが日常生活でよく見かける

金属の輪っかで接続されています。

このリングは小さいために

素手で外すのは困難なので

スプリットリングプライヤーという

ツールで外す事になります。

新しいフックは針だけで

釣具店などに売っています。

あなたが初めてフックを買うのなら、

必ずシーバスフィッシングをしている店員さんを

呼び出して、どのフックを使えばいいのかを

聞いて下さい。

この時、対象となるルアーの正式名称を

サイズとタイプまで覚えておいて、

店頭へ行って店員さんに聞いてください。

これが面倒な場合は

フックを変えたいルアーを

そのまま持っていって見せてください。

腕の立つ店員さんなら、

きっといい話が聞けると思いますよ。

さて、話を戻します。

糸くずとは、スナップやリーダーなどの

結束をした時に出る、

ラインの切れ端をカットした物。

そして、リールやロッドなどに絡まって

切ってしまったラインなどです。

どっちも必ず持ち帰ってくださいね。

特に短い切れ端。

コレは捨てると見つけるのがかなり困難で

未来永劫そのまま誰にも発見されずに

放置される可能性が高いです。

大きくて目立つ糸くずは

まだ誰かに拾ってもらえる可能性がありますが、

細かいものは発見できません。

絶対にその辺にポイしないでください。

よろしくお願いします。

【これらの処理はどうするのか？】

釣りに行く時は必ずゴミ専用のケースを

持ち歩いてください。

釣具店でいろんなアイテムが手に入ります。

マナーケースやダストBOX、

ラインクローラーなどがそうですね。

マナーケースとダストBOXは

小物入れみたいなものです。

ラインクローラーはラインだけしか

回収出来ないので、

私個人的にはマナーケースやサプリメントの

空きケースなどをオススメします。

これらなら、糸くずもフックも収容出来るので。

そして持ち帰ったら、糸くずに関しては

普通の家庭ごみのプラスチックゴミに捨てます。

壊れたルアーなんかもそうですね。

問題はフックです。

これに関しては結論から言うと

住んでいる地域のゴミのルールで違ってきます。

担当のセンターに確認していただくか、

又は、何か別の入れ物に入れて出てこないように

軽く蓋をして、”釣り針が入っています”

と明記して不燃ごみに出して頂けると

大体は大丈夫です。

さらに、目立つように大きく

”危険”とか書いておくと

清掃員の人が発見しやすくなります。

いや～、クールな配慮ですね。

そして、簡単な方法としては

実は釣具店によってはフック回収BOXみたいなのを

設置している店もあります。

ですから、釣りに行く車に

常に**”捨てる釣り針ケース”**を携帯しておいて、

釣具店に立ち寄った時についでに

処理をしていくという方法もオススメ。

そういった釣具店を

是非、探してみてくださいね。

一番手軽に処理できます。

【最後に】

釣りを始めると

そのうちいろんな事に気が付きます。

そう、たとえばフィールドに住んでいる

生き物たちは魚だけではないという事。

私のフィールドでいうなら

こんな鳥もよく見かけます。

セグロセキレイという鳥ですが

コレがまた動きがチョコボみたいで実にかわいい。

わりと人懐っこくて、

こちらが不審な動きを見せなければ

結構近くまで寄ってきます。

実は今度、

餌付けしようかと思ってる・・・。(^_^;)

さらに、こんな猛獣たちも

住んでいるみたい。

かわいくて、たまらない。（笑）

こんな奴らが

きっとあなたのホームフィールドにも住んでます。

あなたもこういったフィールドを守るのに

力を貸して頂けませんか？

な～に、簡単です。

ゴミを持ち帰るだけ。

地球（ほし）と人との繋がりを求めて。

大自然の中に身を置き感じる。

時には静かに、時には激しく生命と対話する。

己の慣性を元に知的に歩む。

その先に待つドラマへと！。

あなたもシーバスフィッシングを始めてみませんか？。

こちら、私の理念でありスローガンでもあります。

もし、少しでも共感して頂けたら

ほんの僅かでいいので

あなたのお力をお貸し下さい。

フィールドには、まだまだこんな釣り人だと

明らかにわかるゴミが当たり前のように

捨てられています。

きーわーど＝みらい

同じ釣り人として

ちょっぴり悲しい気持ちになります。

未来を生きる子どもたちのためにも

素晴らしいフィールドを守っていく。

とても素敵で大切な事。

私はあなたが、

ゴミを持ち帰ってくれると信じていますよ。

以上がZero, start, sea bass fishing book

準備編の内容になります。

あなたがこれからシーバスフィッシングを

していくのに絶対に外せない

知っておくべき内容になっているので

何度も何度も読み返してみてくださいね。

しばらく経ってから読み返すと

さらなる発見があって勉強になります。

わりとヘビーな内容もお話させて

頂きましたが、シーバスフィッシングの

目的と言えば**まずはあなたが楽しむ事。**

しっかりと楽しんでいきましょう。

それでは、

グッドラック！